

令和2年度事業報告について

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により多くの事業が中止・延期となる中で、ベートーヴェン生誕250年を記念して、令和元年度よりシリーズとして開催している神戸市室内管弦楽団が全交響曲、全協奏曲を連続演奏する「ベートーヴェン・チクルス」に挑んだ。コロナ禍にあっても、さまざまな立場の多くの方々から愛され親しまれるホールを目指し、幅広い世代が交流・体験し、アートを体験できる「神戸文化ホールサマージャンボリー2020 ワシュ！ワシュ！アドベンチャー」を実施した。また、コロナ禍により、活動の場が減っているアーティストが、「with コロナ」時代に適応する文化芸術活動を継続していくための新たな企画に対して、一人当たり10万円を補助する『頑張るアーティスト！チャレンジ事業』を実施した。世界的な危機が続き、財政的にも厳しい状況の中、文化・芸術の灯を消さないために事業の在り方や開催方法について、様々な方法を模索するなど試行錯誤を続けている。

(1) ベートーヴェン・チクルス

ベートーヴェン生誕250年の節目の年にあたり、神戸文化ホール等において、ベートーヴェンの全交響曲・全協奏曲を演奏するコンサートをシリーズ化し、令和元年度から令和3年度にかけて計7回・9公演の開催を予定。令和元年度は11月・1月に2公演を、令和2年度は10月、12月、1月に6公演を実施し、令和3年度は6月に1公演を予定している。神戸市室内管弦楽団、神戸市混声合唱団のほか、国内外より著名な指揮者、ソリストによる神戸ならではの音楽を発信することで、両団の周知・魅力発信に努めた。(※新型コロナウイルスの影響により令和元年度の2公演、令和2年度の1公演をそれぞれ翌年度に延期)

(2) サマージャンボリー2020 演劇公演「二分間の冒険」⇒「ワシュ！ワシュ！アドベンチャー」

ホールを「新しい広場」に見立て、幅広い世代が交流や体験を通して楽しみながらアートを親しむフェスティバルとして開催。開催時期が初回の緊急事態宣言後の夏休みだったため、感染対策を徹底しながら一人芝居や屋外パフォーマンス、また「ウィズコロナの新たな気づき」等を事前募集したメッセージカードを会場に展示するなどコロナ禍ならではの特徴とリフレッシュ感を盛り込んだプログラムを工夫し取り組んだ。開催後にダイジェスト映像を制作しホームページを通じて配信した。

(3) 新開地カブキモノ大興行 vol.3

3年目を迎えた「新開地カブキモノ大興行」は、開催一週間前に緊急事態宣言が発出されたため市民参加による新開地パレードを中止したが、ワークショップは感染症対策を徹底して行い、本公演は「緊急事態 ver. それでも、踊る！」としてホール公演とオンライン配信で開催した。

(4) 神戸市の補正予算事業への対応（アーティストチャレンジ事業）

コロナ禍で活動自粛を余儀なくされたアーティストに対し、「with コロナ」時代において文化芸術活動を継続していくために、神戸市において補正予算が生まれ、新たなチャレンジに対する補助金事業を行った。「活動機会を失った舞台関係者と休業縮小している店舗や施設がコラボした一人芝居やダンス公演」や「美術の対面式ワークショップに近い経験ができる趣向を凝らした絵本制作」「美術作品を自

宅へ郵送して作品鑑賞を楽しんでもらう宅配型の作品発表」など、新たな活動の場や表現方法が創り出された。

(5) HALL de PIANO

緊急事態宣言解除後、神戸文化ホール再始動の PR と、ホールの有効活用として「HALL de PIANO」を行った。長い自粛生活をしていた市民の方々に、感染対策を徹底したうえで、中ホールをひとり占めして、ベーゼンドルファー 280VC とスタインウェイ D-274 のピアノの弾き比べを楽しんでいただいた。テレビや新聞、ラジオなどで大きく取り上げられ、同様の取り組みが日本各地のホールに広がった。さらに、ご来場いただけなかった方にも自宅で文化ホールのピアノの音色を楽しんでいただけるよう、神戸のストリートピアノで活躍するユーチューバーの演奏動画を配信し、参加者のメッセージを花時計ギャラリーで掲示した。

2 事業の実施状況

公益目的事業

1 文化振興事業

(1) 事業方針

- ・市民の文化向上に資する質の高い鑑賞型事業の提供
- ・芸術文化による神戸ブランドの創造発信
- ・市民参加型芸術文化事業の充実
- ・地元芸術文化団体との協力関係の強化及び若手芸術家の発掘・支援
- ・情報収集・提供の充実（多様な文化芸術の紹介）
- ・芸術文化を担う人材の育成

(2) 事業内容

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、令和2年度に予定していたホールでの公演や、まちなか、小学校、病院等さまざまな場所で実施予定だった演奏会等の多くが中止を余儀なくされた。

一方で、コロナ禍においても文化振興に資する事業を途絶えさせないため、感染予防のためのガイドライン等を遵守し、実施方法を模索・検討しながら、可能な限り取組を遂行した。

①市民の文化の向上に資する質の高い鑑賞型事業の提供

市民に感動を与え、感性や創造性を育む質の高い芸術を鑑賞出来る機会として、「KOBE ミュージックポート～秋の音楽祭～」において、市民が質の高いクラシックやジャズ等のコンサートをさまざまな場所で鑑賞できる機会を提供した。

②芸術文化による神戸ブランドの創造発信

「ジャズの街神戸」推進事業として、新型コロナの影響で多くのジャズイベントが中止となる中、出演の機会を失ったアーティストや学生に出演の機会を創出し、「with コロナ」時代におけるイベントの可能性を提示すると同時に、神戸のジャズシーンに活気を取り戻すため「KOBE JAZZ SUMMER FESTIVAL」や「新開地ジャズヴォーカルクイーンライブ」等を開催したほか、まちなかでのジャズの生演奏や、「神戸ユースジャズオーケストラ」の運営、ラジオ番組の制作・放送を行った。また、令和3年に実施する「第10回神戸国際フルートコンクール」の実施要項を世界に向けて発表し、出場者の募集を行った。

③市民参加型芸術文化事業の充実

コロナ禍で活動自粛を余儀なくされたアーティストに対し、「with コロナ」時代において文化芸術活動を継続していくために、「アーティストチャレンジ事業」を実施した。「取り組んだ企画が今後の活動の試金石になった」「新たに得た知識やノウハウを生かして今後も活動を続けたい」という声が多く寄せられ、オンライン配信に初めて取り組んだアーティストも多かった。

採択件数	145 件
一次採択者数	251 人
二次採択者数	297 人

また、コロナ禍においても市民による芸術文化活動の発表機会を創出するため、「全日本シャンソンポピュラーコンクール」において、地区大会を全てビデオ審査もしくは無観客で審査したうえで、神戸文化ホールでの「ファイナル」については無観客でのオンラインLIVE配信にて実施した。また、「KOBEミュージックポート」の中で、市民からの公募出演者による野外ライブを開催した。また、「KOBEミュージックポート」の中で野外ライブの出演者を一般公募する等市民参加型事業を展開した。

④ 地元芸術文化団体との協力関係の強化及び若手芸術家の発掘・支援

神戸文化の基盤となっている地元芸術文化団体への活動支援および協力関係の強化を図るとともに、「舞コンサート」の実施や、「神戸ユースジャズオーケストラ」の運営等を通じて、今後の神戸文化の担い手となる若手人材の育成を支援した。

⑤ 情報収集・提供の充実

神戸及びその近郊の様々な芸術文化活動を幅広く紹介する「KOBE C情報」をインスタグラムで発信するなど、SNS等の新しい媒体を活用し、情報ネットワークが多様化した現代に対応するため、情報発信機能の強化を図った。

⑥ 芸術文化を担う人材の育成

各種事業の企画・実施を通じて、アートマネジメント能力の向上を図るなど、「担い手」としての養成・機会確保に努めた。

2 演奏事業

(1) 事業方針

- ・神戸文化ホールおよび文化センター等における質の高い演奏の提供
- ・演奏水準のさらなる向上
- ・広報強化・アウトリーチの実施による両楽団の周知
- ・自主公演への集客強化と新たな依頼公演の獲得

(2) 事業内容

新型コロナウイルスの影響によるホールの閉館、利用制限、あるいは渡航制限、自粛要請等により多くの演奏会が中止、あるいは延期されることとなった。一方、海外在住の演奏家が、コロナ禍により招聘することが困難になった等の理由から、国内アーティストのみの編成による演奏を余儀なくされたところ、国内アーティストの実力評価にもつながるなどの成果もあった。

①神戸市室内管弦楽団・神戸市混声合唱団

室内管弦楽団では、ベートーヴェンの全交響曲・全協奏曲を演奏する「ベートーヴェン・チクルス」を令和元年度から引き続き実施、4公演を行った。また、「CLASSIC PLUS」では、指揮鈴木優人氏、ヴァイオリン木嶋真優氏と世界で活躍する神戸ゆかりのアーティストを招聘、混声合唱団による鈴木優人氏の作品の合唱など特色ある公演を実施した。

混声合唱団では、コロナ禍で合唱の再開が難しい中、ガイドラインに基づき神戸タータンマスクを着用して9月の秋の定期演奏会を開催。兵庫、神戸と関わりの深い池辺晋一郎氏を指揮に迎え、音楽のすばらしさを発信した。

また、両団合同の取り組みとして阪神・淡路大震災25年を契機として特別合同演奏会を開催。指揮に著名な佐渡裕氏を迎え慰霊、鎮魂だけでなく、コロナに負けない!未来に向けたプログラムで、ライブ配信も行った。

(ベートーヴェン・チクルス第4回は新型コロナウイルス感染防止のため令和3年度に延期、混声合唱団3月春定期演奏会は海外からの指揮者が渡航制限のため来日が叶わず中止)

②両楽団の周知・魅力発信の取り組み

2つの楽団を持つ強みを活かし、合同公演を文化センターで開催するとともに、ストリートピアノを活用した演奏会や商業施設等でのまちなかコンサートなど、両団の周知および魅力発信を行った。

また、子どもと一緒に鑑賞できるコンサートを文化センターで実施したほか、次代を担う子どもたちに対する鑑賞機会の提供のため、小学生を神戸文化ホールに招待する「インリーチ事業」と、令和元年度から6年間で市内全小学校へ出張演奏を行う「アウトリーチ事業」に地元音楽家とも連携し、継続して取り組んだ。さらに、特別支援学校へのアウトリーチも行った。

項目	自主公演 (講座等含む)	依頼公演	合計
公演数	49(16)	84(39)	133(55)
入場者数	6,097人	6,643人	12,740人

※括弧内は新型コロナウイルス感染症の影響により中止、延期となった事業・公演数

3 神戸文化ホール公演事業

(1) 事業方針

- ・文化ホールを拠点とした芸術創造・発信事業の展開
- ・優れた舞台芸術の鑑賞機会の提供及び鑑賞を深めるための関連企画の実施
- ・財団のネットワークを活用した市民・芸術家・文化団体・他地域の文化施設などとの交流及び連携事業の実施

(2) 事業内容

新型コロナの影響で先行きが見通せず、一年を通して事業を計画通りに実施することが大変困難であった。予定していた35事業のうち15事業が中止、2事業が延期となった。しかし、ホールから外へ飛び出す参加型事業や配信を用いた鑑賞など新しいことにチャレンジすることも出来た。

①芸術創造・発信事業

ベートーヴェンのアニバーサリーイヤーということで神戸市室内管弦楽団と神戸市混声合唱団による特別演奏会「ベートーヴェンの森」シリーズに取り組んだ。

また、地元の文化団体である和太鼓松村組や貞松・浜田バレエ団、神戸能楽協会と共に新型コロナの感染対策ガイドラインに則って来場者の安全安心を第一に心掛け公演に取り組んだ。

②教育普及・育成事業

計画していた事業の8割近くを中止せざるを得なかったが、サマージャンボリーではウィズコロナの観点からプログラムを組み立てなおし、これまでにない新たな試みを取り入れて開催した。参加アーティストからも好評を得て、アフターコロナに向けての画期的な事業となった。

③鑑賞・学習事業

ツアー中止が相次ぎ最終的に「桂文珍独演会」と「桂米朝一門会」が開催出来た。新たな試みとして「サマージャンボリー」のダイジェスト映像の配信とメッセージの展示をエントランスで実施し、展示事業の可能性を試みた。

(3) 文化ホール公演事業実績

〈事業別〉

	事業数	公演数	入場者数
芸術創造・発信事業	13 (6)	14 (8)	6,628
教育普及・育成事業	2 (7)	2 (13)	180
鑑賞・学習事業	3 (4)	12 (5)	657
合計	18 (17)	28 (26)	7,465

※括弧内は新型コロナウイルス感染症の影響により中止、延期となった事業・公演数

〈部門別〉

	事業数	公演数	入場者数	備 考
音 楽	9 (9)	9 (10)	4,272	クラシック14 合唱2 ポピュラー1 邦楽1
舞 踊	2	3	1,937	バレエ2
演 劇	1 (3)	1 (8)	296	演劇1 能1 歌舞伎1 ミュージカル1
演 芸	3 (2)	3 (5)	710	落語5
その他	3 (3)	12 (3)	250	講座2(能2) 展示1(フェスティバル1) ワークショップ1(演劇1) フェスティバル2
合 計	18 (17)	28 (26)	7,465	

※括弧内は新型コロナウイルス感染症の影響により中止、延期となった事業・公演数

4 神戸文化ホール貸館・管理事業

(1) 事業方針

- ・弾力的なホール運営と専門性の高いサービスの提供
- ・施設利用者、来館者の意見を反映したホール運営
- ・文化の発信拠点として地元芸術団体・若手芸術家を支援
- ・基幹ホールにふさわしい安全・安心な管理運営

(2) 事業内容

コロナ禍の影響や施設の利用制限により、貸館事業の多くで中止が発生。利用率は大きく減少（前年比大ホール▲37.9%、中ホール▲11.8%、練習室▲22.4%）。また、コロナ感染対策として対面接触を減らす為、従来の施設抽選方法を変更。メールを用いた事前受付制とした。更に、空調機の抗ウイルスフィルター設置や、客席の抗菌・抗ウイルスコーティングなどを実施し、より安心してご利用頂けるように取り組んだ。

①弾力的なホール運営と専門性の高いサービスの提供

年中無休、早朝仕込み・深夜撤収など、利用者ニーズに応じた弾力的な運用を継続実施した。

また、体制を強化した舞台スタッフによる専門性の高い舞台表現に対するアドバイスと舞台運営、ホスピタリティ溢れるホール運営及び利用者のサポートを引き続き実施した。

②施設利用者、来館者のご意見を反映したホール運営

利用後のアンケート調査や「お客様の声 BOX」でお寄せいただいたご意見・ご要望を基に、ホール運営全般の改善に努めた。具体的には、オペレーターを増員して、チケット電話予約への迅速な対応を行った。

また、コロナ禍への対応として、インターネットを通じた発信へのニーズが高まっており、光回線設置に向けての工事を行った。

③文化の発信拠点として地元芸術団体・若手芸術家を支援

抽選会における優先利用制度や練習利用の割引料金制度による地元芸術団体、若手芸術家の活動支援を継続して実施した。

また、若手芸術家の発表及び交流の場としての大ホールのロビー活用を継続した。

④基幹ホールにふさわしい安全・安心な管理運営

ホール全般にわたる日常的な点検の実施、不良箇所への速やかな対処に努め、市の公共基幹ホールにふさわしい安全・安心な管理運営を行うとともに、市と連携して、屋上防水工事の実施やトイレ改修に向けた準備など老朽化した施設・設備の改修に取り組んだ。また新型コロナウイルスの感染症拡大に伴い、清掃業務の拡充や手洗いうがいを敢行するポスターを掲示し市民への注意喚起を行った。

(3) 貸館・管理事業実績

		大ホール	中ホール	練習場	合計
利用件数(件)		97	148	2,059	2,304
入場者数(人)		33,983	21,309	22,702	77,994
利用率 (%)	踏入率	38.0	58.5	73.6	
	実利用率	35.0	50.7	49.1	

(※収益事業による利用を含む)

5 神戸アートビレッジセンター (KAVC) 事業

(1) 事業方針

- ・先進的な芸術文化の事業の実施
- ・アートの世界への入り口となるワークショップや講座の実施
- ・市内外の文化施設や教育機関等との交流及び連携
- ・事業を通じたまちの賑わいづくり及び活性化への寄与

(2) 事業内容

緊急事態宣言の影響により4月～6月の催し物が延期・中止となり、その後も事業数縮小や収容率50%による影響のため集客も非常に厳しい状況となった。

一方で感染対策を徹底した上で“声を発しない”マイム公演やオンライン配信など新しい試みを行うなど、コロナ禍で表見活動を止めない積極的な事業展開を行った。

①演劇・舞踊事業

主に関西で活動する若手劇団を1年間通して紹介するKAVC FLAG COMPANYの公演のほか、夏休みの期間中に高校生を対象にした演劇ワークショップ Go!Go!High School Projectのオンライン公演を行った。コロナ禍における新規事業として、いむろなおき「マイム小品集」や、KAVC Play Radio「こやばなし」を実施した。

②美術事業

3回目を迎えた「ART LEAP」では、出品作家に蓮沼昌宏氏を迎え、新作個展「特別にできないファンタジー」を開催した。そのほか、若手支援企画として大八木夏生と勝木有香による二人展「ピンボケの映像」を開催した。また、4月の緊急事態宣言下では「自宅で子どもと楽しむシルクスクリーン」をYouTubeにて配信を行った。

③映像事業

KAVC CINEMAとして、商業的なシネマコンプレックスでは取り扱いの少ないドキュメンタリー作品や、美術や音楽などアートを題材にした作品を主に選択して上映した。また、特集上映として「杉村春子特集」のほか「日本の喜劇映画セレクション」など貴重な35mmフィルムでの上映を行った。その他にも世界的に評価の高いナショナル・シアター・ライブの鑑賞機会を創出した。

④音楽・地域事業

神戸の単館映画館4館（パルシネマ・元町映画館・シネマ神戸・KAVC）が協働して開催するシネマポートフェスは、各館特徴のある映画の上映を行うとともに、周辺地域のお店（40店舗）が参加するスタンプラリーを開催してまちの賑わいを創出した。KAVCでのジャズヴォーカルクィーンコンテストは新型コロナの影響により中止となった。

(3) 神戸アートビレッジセンター事業実績
(事業別)

	事業数	公演数	入場者数
演劇・舞踊事業	14 (4)	100 (16)	4,943
美術事業	11 (1)	51 (1)	3,197
映像事業	17 (3)	530 (120)	3,100
地域・音楽・その他事業	39 (11)	155 (27)	11,564
合計	81 (19)	836 (164)	22,804

※括弧内は新型コロナウイルス感染症の影響により中止、延期となった事業(内数)

6 神戸アートビレッジセンター（KAVC）貸館・管理事業

（1）事業方針

- ・柔軟な施設運営と専門性の高いサービスの提供
- ・若手芸術家の支援及び地元地域団体との協働
- ・複合文化施設にふさわしい安全・安心な管理運営

（2）事業内容

新型コロナウイルス感染症対策を受けて、年度当初からの臨時休館や2回目の緊急事態宣言による開館時間の短縮を行った。この影響により、開館日数は253日と例年を大きく下回り、貸館の総利用者数は、施設全体で前年度比53%減となった。宣言解除後は、利用料の返還対応と並行して、施設利用制限や感染拡大防止策等の防疫体制を強化することで、継続した開館を実現した。

①柔軟な施設運営と専門性の高いサービスの提供

オンライン配信のニーズの高まりに応じて、配信技術と必要機材に関する基礎知識のアドバイスを外部人材から得ると同時に、国の補助金の活用による機材充実に努めた。これにより、利用者のオンラインを活用した事業発信の相談・アドバイスにも対応可能なサポート体制を整えた。

②若手芸術家の支援及び地元地域団体との協働

貸館利用が減少する中で、ホール利用経験の少ない利用者に対し、専門スタッフによる打合せや相談、アドバイスなどのサポートの充実に努めた。

また、コロナ禍の中にあっても、1階のコミュニティスペース1 roomでのチラシ設置や神戸アートビレッジセンターの公式サイト内での公演紹介など広報協力を通じて積極的な支援を行った。

一方で、新開地周辺の地域団体との連携・協働によるイベントも回数が限定されたものの、地域の活性化に貢献した。

③複合文化施設にふさわしい安全・安心な管理運営

コロナ禍においても、安全な施設管理運営のための、日常点検、定期点検、法令点検を着実に実施した。令和2年度は、老朽化したエレベーターの改修を行ったほか、空調設備の改修工事を実施した。さらに、キャッシュレス決済に対応した機器を導入し、利用者へのサービス提供の向上を図った。

7 文化センター講座・地域連携事業

(1) 事業方針

- ・長年別々の活動を展開してきた区民センター、勤労市民センター、北須磨文化センターを令和2年度に文化センターとして統合、講座事業及びイベントを統一して企画運営し地域住民と共に歩む文化センターとして文化活動ニーズに対応
- ・6か月の期間で実施していた講座事業を3か月に再構築して実施し、地域連携事業についても実施
- ・「文化センターサポーター」などによる事業運営への住民参画
- ・財団が有する文化事業運営ノウハウや、文化団体との人的ネットワークを活用

(2) 事業内容

コロナ禍の影響で定例講座事業が春季（6か月間）休講となり、再構築をして秋から実施した。多くの自主事業が取り止めとなり、各センターでレッスンを重ね神戸文化ホールの舞台上で発表する「市民の第九」についても初めて中止した。

一方で、新たに合流した各勤労市民センター、北須磨文化センターにて新しい顧客層開拓を兼ね地域の親子対象の人形劇を開催した。

① 講座事業

入門者・初心者対象の文化・教養・スポーツ等の講座について、「市民の入講しやすさ」を考え、年2回募集の定例講座を春・夏・秋・冬の4回募集に改め、令和2年度秋から実施した。また、伝統芸能の伝承等、公益財団法人として取り組む必要のある講座等にも配慮しつつ、新たな受講者の開拓も図るためオンライン講座を開設した。

② 地域連携事業（地域住民参加型のイベント及び地域文化活性化事業）

コロナ禍の影響は受けたが、夏以降に住民の「発表する」ニーズ及び専門家による芸術文化を「鑑賞する」ニーズに応える地域住民参加型の自主事業「イベント事業」や、各地域の歴史や伝統文化（北区文化センター「農村歌舞伎」など）、個性を生かしつつ、参加や鑑賞等、住民が芸術文化に触れたり、日頃磨いた技を発表したり（秋・冬講座の発表会など）、お互いに交流する機会となる「地域文化活性化事業」を企画実施した。

③ CS 神戸との協働事業

神戸いきいき勤労財団から引き継いだ生涯学習事業に取り組むNPO法人「CS 神戸（コミュニティーサポートセンター）」と、拠点のある灘区文化センターとの従来の協働事業を新たに兵庫区文化センターでも実施した。

8 文化センター貸館・管理事業

(1) 事業方針

- ・料金割引制度や利用団体への広報・相談サポートなどの向上と積極的な広報活動による利用促進
- ・長年培ったノウハウの活用による、安全・安心で快適な利用環境の提供

(2) 事業内容

令和2年度4月～5月は休館措置で貸館はゼロとなり、6月から使用再開で7月は70%、8月～1月は90%近い前年比の回復率を示したが再度の緊急事態宣言を受け2月は65%、以降同レベルで低迷した。

コロナ禍において、感染防止に注力し消毒作業・換気・清掃・アクリル板設置・検温計設置、更に換気が不十分な部屋には空気清浄機を設置することで、市民が少しでも安心して利用しやすい環境を提供した。

9 広報事業

文化振興事業の市民への周知、文化芸術への市民参加の機会拡充、財団の収益向上等の観点から、財団の広報体制を確立するとともに、メディアの活用など多様な手段により、これまで以上に積極的に広報PRに努めた。

(1) 神戸文化ホールからの情報発信強化

事業の中止が相次いだため一時的に一年間休刊した。

(2) 文化センターからの情報発信強化

文化センターからの情報発信機能の充実強化を図るため、チラシやホームページでの情報提供のほか、ポスティング、文化センターだよりの発行、固定客・リピーター確保のための友の会運営に取り組んだ。

(3) 神戸アートビレッジセンターの情報発信強化

	回数	発行部数	備 考
マンスリーニュース	10	500部/月	KAVC で開催される自主事業、貸館事業のスケジュールをまとめたもの。 プレス等への発送と、KAVC 館内の設置・自主事業挟込等（毎月月末発行） ※緊急事態宣言に伴い4・5月号中止
ART VILLAGE VOICE	4	8,000部/季刊（年4回）	KAVC の催し物や、新開地周辺地区の情報掲載した広報誌（年4回発行） 会員を始め全国の美術館、劇場、映画館など文化施設への発送

(4) インターネットによる情報発信

芸術文化に関する多様な情報を市民に提供することを目的として昭和57年より発行を続けた「KOBEC情報」は、令和2年度から財団ウェブサイト、Twitter、Facebook、Instagram にリニューアルをした。また、市内の文化施設、イベント主催者、後援名義申請者の文化情報より簡単に発信いただけるように、財団ウェブサイト内に容易に入力可能な情報提供フォームを設置した。コロナ禍においても神戸の文化を絶やさないう、地域文化施設及び団体との広報連携を強化しながら情報発信を行った。

神戸文化ホール、神戸アートビレッジセンターの「ジャズの街神戸」推進協議会「JAZZ TOWN KOBE」、神戸国際フルートコンクールなどのホームページで、積極的に発信をおこなった。さらに、旧勤労市民センターとの合併に伴い、スマートフォンでも閲覧しやすいデザインに財団ホームページを大幅リニューアルし、閲覧者の利便性向上を図った。定例講座の案内サイトでは、スタッフブログ開設や、写真を多く用いて視覚的訴求を強化し、講座受講生獲得の促進を行った。一方で、コロナ禍で事業や講座の中止や延期が続いたため、Facebook や Twitter、Instagram など即時性の高い SNS で迅速に情報発信を行った。

また、新型コロナウイルス感染拡大により、家で過ごす市民に楽しんでもらおうと、動画特集ページを公開した。過去の主催公演である「市民の第九」や「フルート 500 人アンサンブル」動画や、神戸市室内管弦楽団・神戸市混声合唱団が自宅などで撮影した動画を編集し、公開した。

財団ホームページ訪問者数	1,919,327人（月平均159,944人）
Facebook フォロワー数	6,841人
Twitter フォロワー数	5,002人
Instagram フォロワー数	1,390人

※SNSのフォロワー数は文化センター部及び事業部、KAVCの各の合計。

（5）広報・PRの強化

広報PR及び法人等への営業の専門部署として設置された営業企画課で、各事業のSNSアカウントを用いて、動画配信を行うなど独自のメディアを活用した事業広報を実施した。

また、ベートーヴェンの名言「苦悩を突き抜ければ、歓喜に至る」などを記した懸垂幕やポスターをホールや近くの市営地下鉄の駅などに設置し、励ましのメッセージを送った。

ホールの利用者や観客に安心感を与えるために、抗ウイルス・抗菌加工実施のチラシ・ポスターや、兵庫県新型コロナ追跡システムを、周知するオリジナルPOPを設置した。

収益事業

<収益事業>

(1) 神戸文化ホール貸館・管理事業

神戸文化ホールにおいて、コンベンション等文化活動以外を目的とする活動の場の提供を図る。また自動販売機設置や駐車場等神戸文化ホール利用者へのサービス向上を行う。

※施設概要 大ホール、中ホール、リハーサル室、練習室 1～5、
多目的室、特別控室

自動販売機 : 7 台

駐車場（神戸文化ホール練習場） : 10 台

【貸館利用件数】 大ホール 合計 97 件 うち収益 17 件
中ホール 合計 148 件 うち収益 15 件

(2) 神戸アートビレッジセンター貸館・管理事業

神戸アートビレッジセンターにおいて、地域の集会等文化活動以外を目的とする活動の場を提供した。また、自動販売機設置による利用者へのサービス向上を図った。

※施設概要 多機能ホール、視聴覚ホール、ギャラリー、リハーサル室 1～2、
会議室 1～2、スタジオ 1～3、1room 等

自動販売機 : 4 台

【貸館利用件数】 ホール 合計 334 件
シアター 合計 424 件
ギャラリー 合計 567 件
リハーサル室 合計 550 件
スタジオ 合計 456 件
アトリエ 合計 70 件
会議室 合計 470 件
貸館合計 2,871 件 うち収益 187 件

(3) 文化センター講座・地域連携事業

当財団が指定管理者として管理運営する文化センターにて、美容・スポーツ等の文化振興目的以外で利用者ニーズの高い講座や自主事業を開催した。

※例 講座：健康体操、スポーツ吹矢、バドミントン、卓球、スイミング等
自主事業：コミュニティフェスティバル、卓球大会等

【定例講座件数】 合計 1,586 件 うち収益 394 件

【地域連携事業件数】 合計 51 件 うち収益 2 件

(4) 文化センター貸館・管理事業

指定管理者である文化センターにおいて、イベント等文化活動以外を目的とする活動の場を提供する。また自動販売機設置や駐車場等文化センター利用者へのサービス向上を行う。

※施設概要 大ホール、会議室、多目的室、和室・音楽室・美術室・陶芸室、
体育館、プール等

自動販売機 : 40 台

駐車場（北神区文化センター） : 123 (済)

【貸館利用件数】 合計 50,793 件 うち収益 18,937 件

法人管理運営事業（法人運営全体に関わる事業）

（１）専門性の強化・効率的な執行体制の構築

民間会社のイベント運営のノウハウの修得を目指し、職員を「六甲ミーツアート」の事務局を担う六甲山観光株式会社に派遣する人的支援を行った。

（２）経営基盤の強化

事業における更なる経費の見直し、アウトソーシングによる業務の効率化などを進めるとともに、「ベーターヴェン・チクルス」など公益性の高い事業に対して国等からの外部助成金の積極的な獲得を行った。

3 数値目標

【芸術文化の創造・発信】

	令和2年度目標	令和2年度実績	令和元年度実績
創造発信型事業の数	100	134	120

【普及啓発】

	令和2年度目標	令和2年度実績	令和元年度実績
アウトリーチ実施回数	35	96	130

【国際交流事業】

	令和2年度目標	令和2年度実績	令和元年度実績
海外芸術家等による公演等実施回数	15	0	11

【指定管理施設管理事業】

1 神戸文化ホール

		令和2年度目標	令和2年度実績	令和元年度実績
利用率 (踏入率)	大ホール	82%	38.0%	75.9%
	中ホール	88%	58.5%	70.3%
利用率 (実利用率)	大ホール	72%	35.0%	66.0%
	中ホール	76%	50.7%	65.3%
利用者数	大中ホール	54万人	55,292人	415,333人
	練習室含む	60万人	77,994人	457,954人
利用者満足度 (施設全般について良い・概ね良い・普通)		95%	100%	96.9%
友の会 加入数	個人	1,900人	788人	1,137人
	法人	16社	0	0

2 神戸アートビレッジセンター

		令和2年度目標	令和2年度実績	令和元年度実績
利用率 (踏込率)	ホール	65.0%	57.9%	82.1%
	シアター	80.0%	67.3%	75.0%
	ギャラリー	80.0%	74.8%	73.9%
利用率 (実利用率)	ホール	65.0%	52.8%	75.5%
	シアター	80.0%	65.6%	71.1%
利用者数		183,700人	73,998人	176,283人
利用者満足度		85.0%	99.4%	99.1%

※利用者数には自主事業の利用者数も含む

3 文化センター

		令和2年度目標	令和2年度実績	令和元年度実績
利用率 (踏込率)	全体	79.5%	55.9%	68.7%
	うちホール	72.5%	52.6%	64.9%
利用率 (実利用率)	全体	51.5%	34.1%	45.5%
	うちホール	46.5%	30.8%	41.6%
講座受講者数		25,000人※	20,900人	24,200人
利用者満足度		95%	98%	95.7%

※R2年度目標については旧区民センター等の目標値

【財団管理・経営関係】

	令和2年度目標	令和2年度実績	令和元年度実績
経営目標（年度収支の均衡）	±0	▲96,124千円	28,401千円